



タイルや空気消臭除菌装置などさまざまな製品を使って実証する

光触媒で感染防止

フジコーなど、実証実験

【北九州】フジコー（北九州市戸畑区、萩尾寿昭社長）は、北九州市、九州大学と共同で、新型コロナウイルスを含む各種感染症対策の実証実験を北九州市内で始める。二つの介護施設にフジコーが開発した光触媒製品を施工・設置し、3年をかけて臨床データを取得する。期間中は感染防止対策の有効性を検証するとともに、結果を基に病院や介護施設など幅広い分野に利用を呼びかけていく。

実証実験は介護施設 ウイルスの数や、感染の共用エリアの一部に 病発症者数などを観察 消臭除菌床タイルと除 していく。インフルエンザ シートやノロウイルスな 消臭除菌装置も設置す ども対象とする。

無施工の共用エリ アと比較して、床やテ ーブルに付着する菌・

2021年11月中旬に 施工・設置を始め、22 年6月以降は対象施設

の拡大も検討する。北 橋健治市長は「感染対 策の有効性が実証でき れば、北九州モデル」として全国に発信した」と期待した。

フジコーの光触媒技 術は酸化チタンと抗菌 金属を混合した素材を 800度C以下の低温

で溶射し、基材に高密 度に密着させる。奈良 県立医科大学での新型 コロナウイルス不活化 実証実験では、同社製 光触媒フィルムターに付 着したウイルスが2時 間後に検出限界値未満 となったことが確認さ れたとしている。